

社会科教室 127号

平成3年度

社会科教育研究のあゆみ

香川県小学校教育研究会社会部会  
香川県社会科教育研究会

## 目 次

会長あいさつ.....	1
香社研総会.....	2
定例研究会.....	3
5月定例会.....	4
6月定例会.....	5
9月定例会.....	6
10月定例会.....	7
11月定例会.....	8
夏季研修会.....	10
大川郡の研究.....	12
三本松小の研究.....	16
香社研提案.....	20

## 発刊に当たって

香川県小学校教育研究会社会部会  
香川県社会科教育研究会  
会長 川 田 豊 弘

今、学校教育は知識や技能をひとしく身に付けさせることを重視した教育から、自ら考える力を養い創造的な知性と能力を育てることを重視する教育へと基調を大きく変えてきています。

この時代の要請をしっかりと踏まえて、今年度は「個性を生かし、基礎・基本を大切にす社会科学習 — 問いと論証の調べ学習の実践 — 」という研究主題を掲げて研究を進めて参りました。

何といたっても研究のあゆみの中核は、大川郡三本松小学校と坂出市ふれあい会館を会場とした夏季研修会でした。夏季休業中という困難な条件の中で研究授業を行ってくださいました三本松小学校の先生方、また、ご多用にもかかわらずご指導くださいました高野尚好先生、池内 博先生に改めて厚くお礼申し上げます。

また、各郡市研究会が総力を結集して行った定例研究会は、三豊郡河内小学校、大川郡造田小学校、高松市四番丁小学校、丸亀市城坤小学校、坂出市林田小学校、香川郡大野小学校、仲善、綾歌を会場として開催しましたが、いずれも内容の濃いものであり、香社研の研究を大きく前進させたものであります。

この冊子は、こうした研究の足跡でありまして、改めてご努力いただいた会員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

なお、平成4年11月12日(木)13日(金)に第29回全国社会科研究大会を大川郡大内町立三本松小学校で開催すべく、現在、鋭意、準備を進めているところであります。

つきましては、大川社研の会員の方々の格別のご努力と県下全会員の力強いご支援を心からお願い申し上げます。

# 香社研総会

1 日時 平成3年 4月28日(日)

9:30~12:30

2 場所 附属坂出小学校

3 日程 9:30~11:00 理事会

11:00~12:30 総会

4 内容

(1) 平成2年度の研究経過

(2) 平成3年度の組織と運営

(3) 平成3年度の年間計画

・ 定例会の日程

・ 夏季研修会について

(4) 平成3年度の研究主題

個性を生かし、基礎・基本を大切にする社会科学習

— 子供同士が互いの考えを生かし、伸ばし合う学習を求めて —

(5) 香社研40年史編集計画

(6) 平成3年度 郡市社研役員名簿

(7) 連絡網

(8) 平成3年度 香社研会員名簿

## 定例研究会

6月定例会・・・三観（河内小学校） 6月 1日

6年 「源 頼朝と鎌倉幕府」

授業者 安藤 清和（河内小）  
提案者 宮武 昭裕（桑山小）  
指導者 岡根 淳二先生（観音寺市教委）

6月定例会・・・大川（造田小学校） 6月29日

5年 「造田にやってきた村上製作所」

授業者 大高 哲也（造田小）  
提案者 三井 重彰（多和小）  
指導者 岡田 弘治先生（常任指導者）

9月定例会・・・高松（四番丁小学校） 9月21日

5年 「伝統を生かす工業 ～香川漆器～」

授業者 金崎 美穂（四番丁小）  
提案者 松川 幸代（亀阜小）  
指導者 高橋 英式先生（高松市教委）

10月定例会・・・丸亀（城坤小学校） 10月26日

4年 「道と私たち ～大久保じん之丞さん  
から学ぼう～」

授業者 北分 英樹（城坤小）  
提案者 山野 正登（城坤小）  
指導者 大西 孝典先生（常任指導者）

11月定例会・・・坂出（林田小学校） 11月 2日

5年 「新聞の持つ働きについて調べよう」

授業者 吉田 和弘（林田小）  
提案者 虫本 利久（川津小）  
指導者 猪熊 一生先生（坂出市教委）

11月定例会・・・香川（大野小学校） 11月19日

5年 「広がる環境汚染」

授業者 小原 敏昭（大野小）  
提案者 野口 泰三（浅野小）  
指導者 高橋 英式先生（高松市教委）

1月定例会・・・綾歌（飯山南小学校）

2月定例会・・・仲善（普通寺東部小学校）

## 5 月定例会（三観）の研究内容

1 日時 6月1日（土）14：00～16：30

2 場所 河内小学校

### 3 研究授業

単元名 6年 「源 頼朝と鎌倉幕府」

授業者 安藤 清和（河内小）

提案者 宮武 昭裕（桑山小）

指導者 岡根 淳二先生

### 4 提案内容

テーマ 「社会認識を高める社会科学習の展開」

－ 調べ活動を通して、個性的な理解を －

### 5 討議、指導内容

- ・ 当時の武士の生活について、具体的にイメージを持つ必要があるのではないか。そのことがないと、先陣あらそいをする2人の気持ちにはせまっていけないのではないか。
- ・ 高綱と景季の人物像にせまるための、具体的な資料（生活、家柄など）がもっと必要である。そして、人物の臭いのする授業をしていくべきである。
- ・ 個性的な理解ということを経らいとすれば、学習活動5のふきだしという表現活動がどうしても必要だったのではないか。
- ・ 個性的な理解ということで大切にしなければいけないことは、個性的な問いではないか。自ら、考える値打ちがあると判断した問いに支えられた調べ活動であることが大切である。

## 6 月定例会（大川）の研究内容

- 1 日時 6月29日（土）14：00～16：30
- 2 場所 造田小学校
- 3 研究授業
- |     |            |                 |
|-----|------------|-----------------|
| 单元名 | 5年         | 「造田にやってきた村上製作所」 |
| 授業者 | 大高 哲也（造田小） |                 |
| 提案者 | 三井 重彰（多和小） |                 |
| 指導者 | 岡田 弘治先生    |                 |

### 4 提案内容

テーマ 「自ら学び、生き方を見直そうとする社会科学習」  
— 国際理解的な視点に立って —

### 5 討議、指導内容

- 村上製作所について調べたことから、何ができてくるかということが大切なのではないか。本時の場合、交通網の広がりとか技術革新というようなことが内容として学ばれていくことが必要である。
- 村上製作所の学習と同時に、日本の工業のようすとか人々の努力ということが内容として必要ではないか。
- 学習問題の書き方を工夫すべきではないか。内容と表現の見通しのあるような書き方（～を調べて～にあらわそう。くわしくしよう。）のほうが子どもにはわかりやすいのではないか。
- 広さ、値段、位置、環境ということで相互交流をさせようとしたが、時間や内容のつながりということを考えて、どう相互交流がおこなわれるかということの教師の見通しが必要である。

## 9月定例会（高松）の研究内容

- 1 日時 9月21日（土）14:00～16:30
- 2 場所 四番丁小学校
- 3 研究授業  
単元名 5年「伝統を生かす工業 ～香川漆器～」  
授業者 金崎 美穂（四番丁小）  
提案者 松川 幸代（亀阜小）  
指導者 高橋 英次先生

### 4 提案内容

テーマ 「問いと論証の調べ学習」

－ 文化と伝統の視点から －

### 5 討議、指導内容

- ・ 個を生かす授業とは、子どもの持つ教材観から出発する授業である。そして、教師と子どもの教材観が統一されていくような単元の流れを考えることが大切である。
- ・ 説明板に書くという表現活動の中で、基礎基本が定着しているのではないか。そのことが、知識を自ら獲得していくということでもある。
- ・ 使い手の側から漆器の意味を探ることで、伝統や文化を大切にしようとする日本人の心にせまっていこうとする考えは良いと思う。
- ・ 指導案の書き方（新しい学力観とのつながり、反応の広がり  
と深さなど）はたいへん参考になった。

## 10月定例会（丸亀）の研究内容

- 1 日時 10月26日（土）14:00～16:30
- 2 場所 城坤小学校
- 3 研究授業
- 単元名 4年「道と私たち～大久保じん之丞さんから学ぼう～」
- 授業者 北分 英樹（城坤小）
- 提案者 山野 正登（城坤小）
- 指導者 大西 孝典先生

### 4 提案内容

テーマ 「基礎・基本を明らかにし、一人一人が意欲的に学ぶ社会科学習のあり方」

### 5 討議、指導内容

- 道という具体物を、単元を通しての子どもの調べ学習の中に位置づけ、4コマ漫画をつくっていくという学習だったので意識の流れがスムーズであった。
- 4コマ漫画に表現することによって、先人の願いを調べていこうという活動は効果的だ。しかし、先人のどんな願いをどのように取り上げるのかをより考えた単元展開の工夫が必要ではないか。
- 表現活動には意欲的に取り組んだが、子どもに論理的に考えるという力を育てることも大切である。
- 新しい学力間に立つならば、単元の中で子どもが学習をつくり出し、自ら判断し、自分の知識や理解内容を組み立てていく場をのあり方をさぐっていかなければならない。

## 1 1月定例会（坂出）の研究内容

- 1 日時 11月2日（土）14:00～16:30
- 2 場所 林田小学校
- 3 研究授業  
单元名 5年「新聞の持つ働きについて調べよう」  
授業者 吉田 和弘（林田小）  
提案者 虫本 利久（川津小）  
指導者 猪熊 一生先生

### 4 提案内容

テーマ「社会の変化に主体的に対応する力を育てる社会科学習の展開」

### 5 討議、指導内容

- ・ 子どもにとって情報とは何なのかということをはっきりとさせていくことが必要である。
- ・ コンピューターを使って、たくさんの情報を分類したり、整理したりする活動はみられたが、新聞の意義をつかませようとしたり、情報活用能力を育てたりするためには、もっと教師の援助（素材の教材化など）が必要である。
- ・ 子どもにとって調べる意欲が持て、子どもの力で調べていける素材は何なのかということの研究が大切である。
- ・ 新聞社で働く人々の工夫や苦勞をつかませることは難しい。しかし、子ども自身と結びつきが深い新聞記事を取り上げるなどの手だてをしていかなければならない。

## 1 1 月定例会（香川）の研究内容

1 日時 11月19日（土）14:00～16:30

2 場所 大野小学校

### 3 研究授業

単元名 5年「広がる環境汚染」

授業者 小原 敏昭（大野小）

提案者 野口 泰三（浅野小）

指導者 高橋 英式先生

### 4 提案内容

テーマ 「意欲を高め、主体性を伸ばす社会科学習の展開」

－ 体験を取り入れた指導を通して －

### 5 討議、指導内容

- ・ 他領域との関連を図り、大主題で取り組むということは良いのではないか。その場合、その中での社会科の果たす役割ということをはっきりさせておく必要がある。
- ・ 社会科のねらいは、認識をどう深めるかということであろう。したがって、今日の学習の場合、20年後の予想ということでの討論ではなく、環境を守るためにどうするのかということでも話し合うほうが良かったのではないか。
- ・ 子どもの表現や討論という学び方を中心にした授業ということでは、参考荷なる点が多かった。
- ・ 新しい学力観では、教師主導から子ども中心へ指導法を転換し、体験や4年生で学んだことから、問いが生まれてくることが望ましい。

8月2日(金)

(※ 進行……三本松小 堀 紀明 教頭)

時刻	内 容							
9:30	提案授業							
	学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
	单元名	わたしの家族	私たちの大内まつりをしよう	農家の仕事の工夫 ーパセリづくりー	手袋の町 ー棚次辰吉ー	私たちの町の紡績工業 ー東洋紡績ー	鎖国の扉をたたく者 ー井伊直弼ー	
	授業者	久詰 好子(三本松)	熊田 春美(三本松)	上村 京子(三本松)	石田 佳二(三本松)	児嶋 育代(三本松)	大西 和美(三本松)	
	協力者	県	谷本 量子(松山)	大前 浩美(香西)	柴田 英明(豊沢)	久保山 学(郡家)	片井 功(多度津)	野村 一夫(岡田)
		郡	石塚 恵子(津田)	三好真由美(白鳥)	高田 宏隆(相生)	松村 和仁(多和)	田村 秀忠(志度)	窪田 史子(相生)
		郡	国方 歳子(志度)	大路 真弓(本町)	竹田 具治(丹生)	六車 功(中央)	大高 哲也(造田)	竹内 久司(鶴羽)
	記録者	小山 久美(造田)	梅本 明宏(志度)	岩崎 安徳(本町)	古澤 哲夫(福栄)	亀井 健男(白鳥)	大石 桂司(中央)	
	主任	多田 敬三(長尾)	安部 静代(鴨部)	大山 博文(志度)	向山智恵子(引田)	大岡 真海(丹生)	佐藤 正文(本町)	
	10:15							
10:30	分科会							
	学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
	司会者	香川 浩子(城東)	黒川 紀子(香西)	唐木 裕志(金山)	香川 佳和(栗熊)	宮武 昭裕(桑山)	亀山 典良(高篠)	
	提案者	県	高橋夕香里(亀阜)	鈴木 育代(中央)	市原 茂幹(栗林)	波多 誠(国北)	増井 泰弘(城東)	福家 正人(太田)
		郡	多田 敬三(長尾)	三好真由美(白鳥)	白澤 一修(富田)	松村 和仁(多和)	田村 秀忠(志度)	窪田 史子(相生)
	記録者	長榮佐代美(苗羽)	佐藤 和代(林田)	安藤 雅彦(飯北)	宮武 克明(筆岡)	安藤 通(勝間)	樫原 一宏(牟礼)	
指導者	渡邊久仁子(県教)	岡根 淳二(観教)	曾根 照正(西部)	岡田 弘治(川派)	大西 孝典(附坂)	上川 敦生(附高)		
12:00	昼食・休憩							
13:00	研究発表 本部提案 ー社会科「調べ学習」の展開と課題ー 提案者 池田 孝徳 (附属高松小学校)							
13:30	研究発表 (1) 大社研 研究部 自ら学び、生き方を見直そうとする社会科・生活科学習 三井 重彰(多和小) (2) 三本松小 現教部 地域教材における国際理解的な視点に立って 山下 博(三本松小)							
14:30								
14:40	ー 講 評 ー 講師 文部省 教科調査官 高野 尚好 先生 記録者 安倍 幸則 (木太南小)							
16:00	閉会							

8月3日(土) (※ 進行……附属坂出小 岩倉隆視)

場	時刻	内 容
坂 出 市 ふ れ あ い 会 館	9:30	<p><b>実践発表</b></p> <p>今、社会科学習で求めたいこと — 新学習指導要領の主旨を踏まえて —</p> <p>司会者 宇山知昌(附属坂出小学校) 【テーマ発表・福島大】</p> <p>実践発表者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旅田敏弘(附属高松小学校)</li> <li>・ 上井 嘉(太田小)</li> <li>・ 田中秀年(櫃石小)</li> <li>・ 末澤康彦(粉所小)</li> <li>・ 前川保雄(琴平小)</li> <li>・ 原 直史(観東小)</li> </ul> <p>記録者 古市礼恵(平井小)</p>
	10:45	
	11:00	<p><b>講演 1</b></p> <p>演題 「新社会科が求める授業と学校づくり」</p> <p>— 実践発表を踏まえて —</p> <p>講師 高松短期大学 講師 池内 博 先生</p> <p>記録者 三木克彦(福田小)</p>
	12:30	
	13:30	<p><b>講演 2</b></p> <p>演題 「社会科の学習指導と評価」</p> <p>講師 文部省 教科調査官 高野尚好 先生</p> <p>記録者 増田敏之(直島小)</p>
15:00	<p>閉会式</p>	

## 提 案 資 料

### 【大社研・研究テーマ】

自ら学び、生き方を見直そうとする社会科・生活科学習  
— 地域教材における国際理解的な視点を通して —

Q 新指導要領では、どのような点が重視されているのか ??

#### 1. 新指導要領の改善の具体的事項

教育課程審議会は、今次、改訂における社会科改善の基本方針として大きく2つのことを示し、21世紀に向けての新社会科の方向と具体的な内容と方法を提示した。即ち、次の2点である。

- (1) 世界の中の日本人を育てる。
- (2) 知識中心の学習にならないように内容の精選を図る。

これを受けて小学校社会科では、改善の具体的事項を次の6項目にまとめて示した。

- ① 生活科との関連を考慮して、具体的な活動や体験を重視すること。
- ② 地域社会の変化を考慮して、内容の改善を図り、外国とのつながりにも気付かせること、地域社会の発展を願う態度を育てること。
- ③ 社会の変化に対応するという観点から、運輸、通信などの第3次産業の内容の充実を図ること。
- ④ 人物や文化遺産を中心とした歴史学習の徹底を図るように内容の示し方を改めること、特に明治維新以降について内容の精選を図ること。
- ⑤ 内容の重複を避け効果的に進めるために、第4学年の政治のはたらきについての内容は、第6学年の政治のはたらきに含めて取り扱うこと。
- ⑥ 国際社会に生きる日本人を育てるために、発達段階に応じて国旗及び国家の意義について理解させ、それらを尊重する態度を育てること。

## 2. 新・指導要領にみる地域教材の位置付けから

『小学校社会科の内容構成は、各学年を追って、身近な社会から地域社会、そして国土や国民生活、さらに国際社会へと広がりを見せている。

その中で、3・4年の中学年が地域社会を対象として取り上げ、いわゆる地域学習における教材と考えがちであるが、地域教材の開発を中学年に限定してはならない。

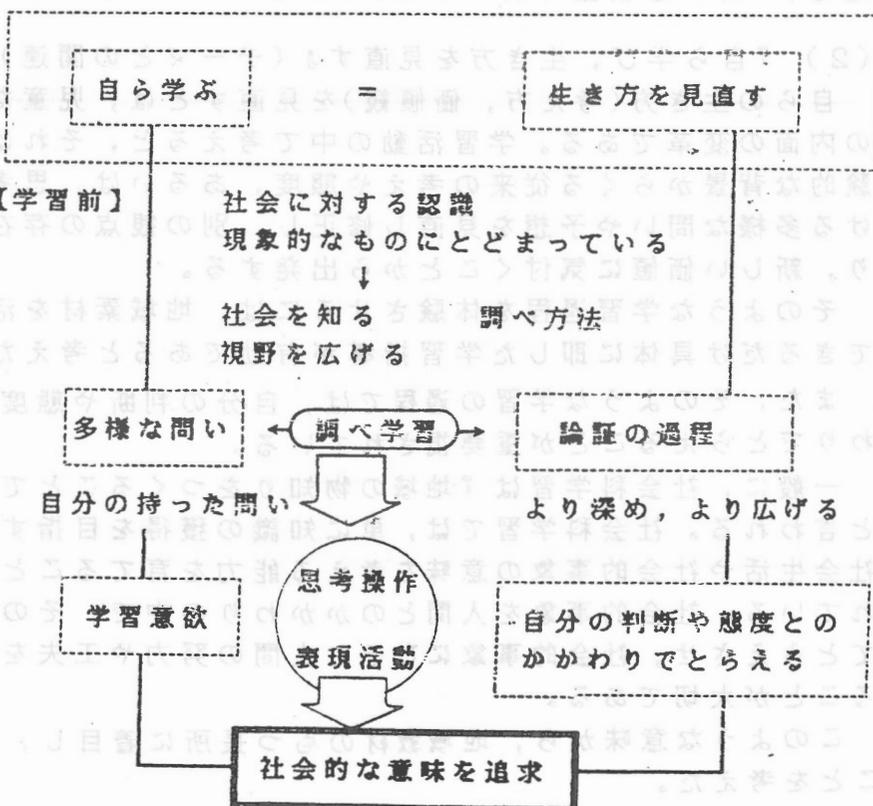
4年から6年まで、各学年の目標・内容に対応した適切な地域教材の開発が求められているのである。

また、生活科を含めて、1年から6年まで、一貫した系統的な地域教材の開発が期待されるところである。』

Q 研究テーマは、どのように考えて設定されたのか??

## 3. 研究テーマの分析

### (1) 研究テーマの構造



《3つの観点から  
とらえた論証の  
意味》

知 力	① 論証に必要な因子を調べ、基礎・基本の事項を明らかにする。
能 力	① 論証は、論理的思考力により、考えを深めたり広げたりする働きをする。 ② 論証は、人間らしい深い考えの基礎として、人間らしい感情を育てる。
学び方	① 論証は、情報から自分の論を作り、その論を問いとのつながりによって、いっそう深くすることができる。 ② 論証は、常に、自己評価をとめないつつ論理の力を育てることができる。

このような点を踏まえて、教材内容の視点を構想した。

では、次に、『どう教え』『どのような子供づくり』を目指そうとするのか。確認したいことは、『自ら学び、生き方を見直す』学習とは、『問いと論証の調べ学習』そのものであるということである。

(2) 『自ら学び、生き方を見直す』(テーマとの関連)から

自らの生き方(考え方、価値観)を見直すとは、児童なりの自己の内面の変革である。学習活動の中で考えると、それは、生活経験的な背景からくる従来の考えや態度、あるいは、思考場面における多様な問いや予想を見直し修正し、別の観点の存在を知ったり、新しい価値に気付くことから出発する。

そのような学習過程を体験させるには、地域素材を活用して、できるだけ具体的に即した学習指導が有効であると考えた。

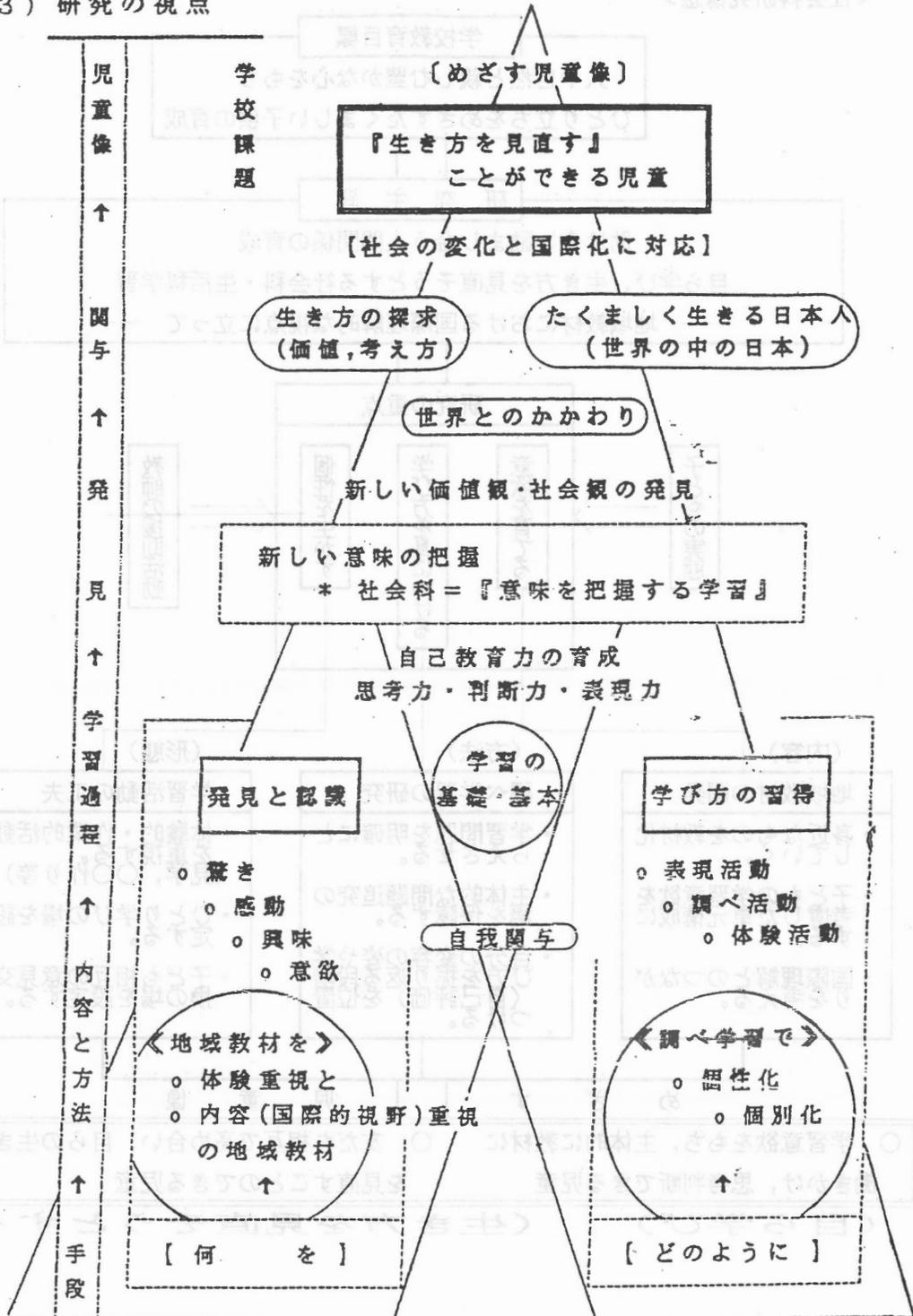
また、そのような学習の過程では、自分の判断や態度とのかかわりでとらえることが重要視されている。

一般に、社会科学習は『地域の物知りをつくることではない』と言われる。社会科学習では、単に知識の獲得を目指すよりも、社会生活や社会的事象の意味を考える能力を育てることが求められている。社会的事象を人間とのかかわりの中で、その営みとしてとらえさせ、社会的事象にひそむ人間の努力や工夫をわからせることが大切である。

このような意味から、地域教材のもつ長所に着目し、活用することを考えた。

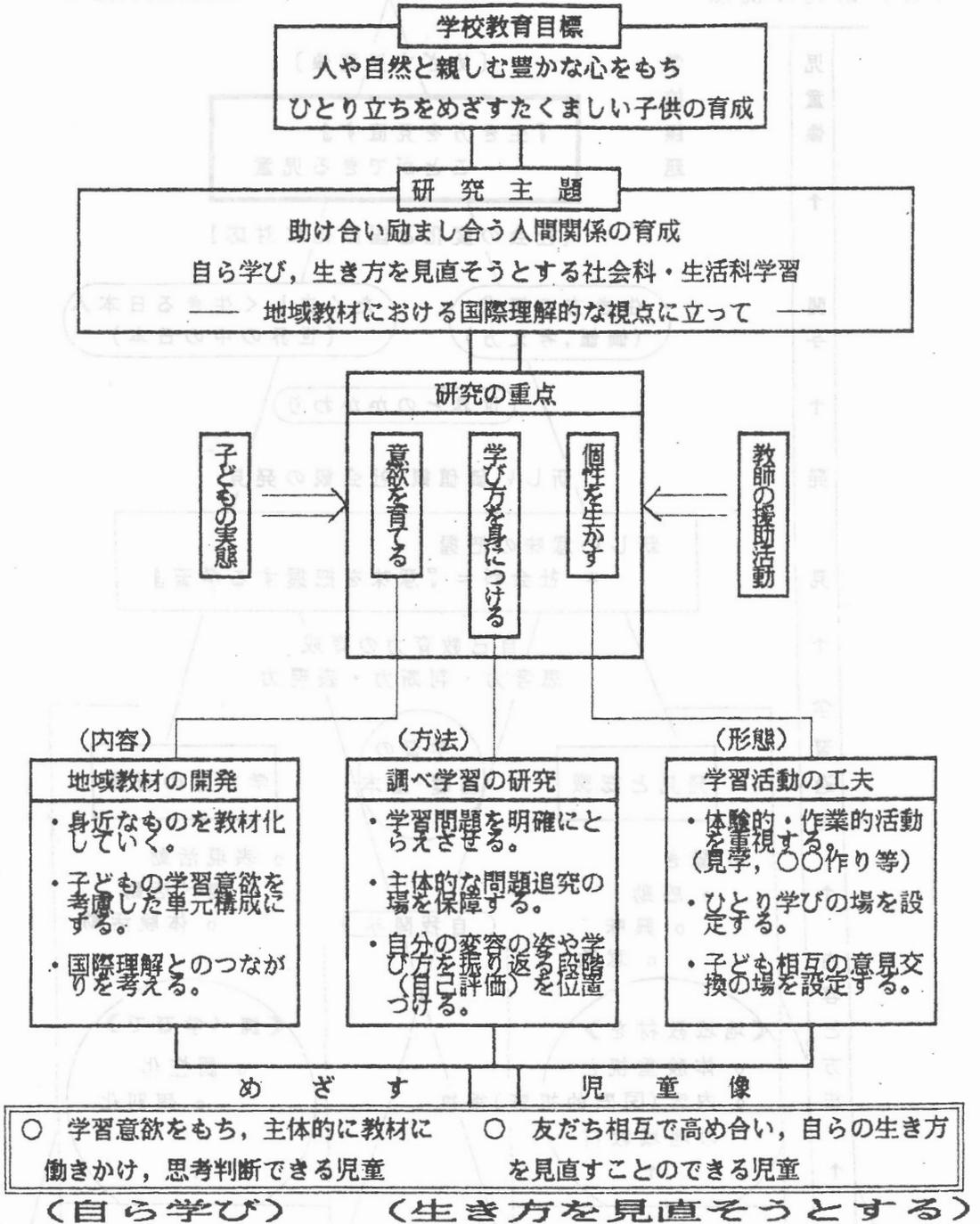
Q 研究の視点を、どのように考えているのか??

(3) 研究の視点



# 三本松小学校の研究

## <社会科研究構想>



<研究仮説>

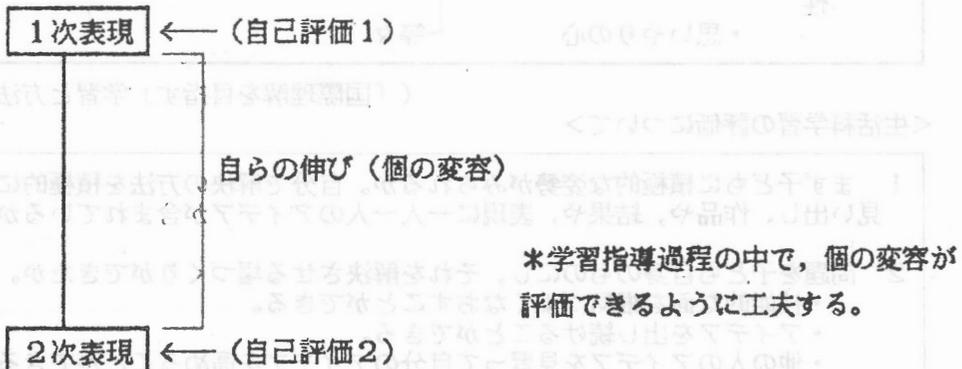
- (1) 活動や体験を十分に取り入れ、問題解決型の指導過程を工夫すれば、自ら学ぶ意欲や態度が育つだろう。
- (2) 問題解決をする過程において、子ども相互の学び合いを大切にし、生き方の追究につながる学習を進めていけば、お互いの個性を認め合い、生きた基礎・基本を身につけることができるだろう。

<研究内容>

- (1) 問題解決型の指導過程を組み、活動や体験を重視した学習活動の場と方法を工夫する。
  - ア、問題解決の仕方（学習の手順方法）の研究
  - イ、発達課題に応じた教材の分析－社会科・生活科の指導書もとに
  - ウ、自己評価と教師の援助活動
- (2) 基礎・基本を大切にし、個を生かし、学び合う学習形態の工夫や手立てを開発する。
  - ア、全員参加の学習と子どもにまかせる場の確保
  - イ、相互交流の場の工夫
  - ウ、相互評価と教師の援助活動

<評価の観点>

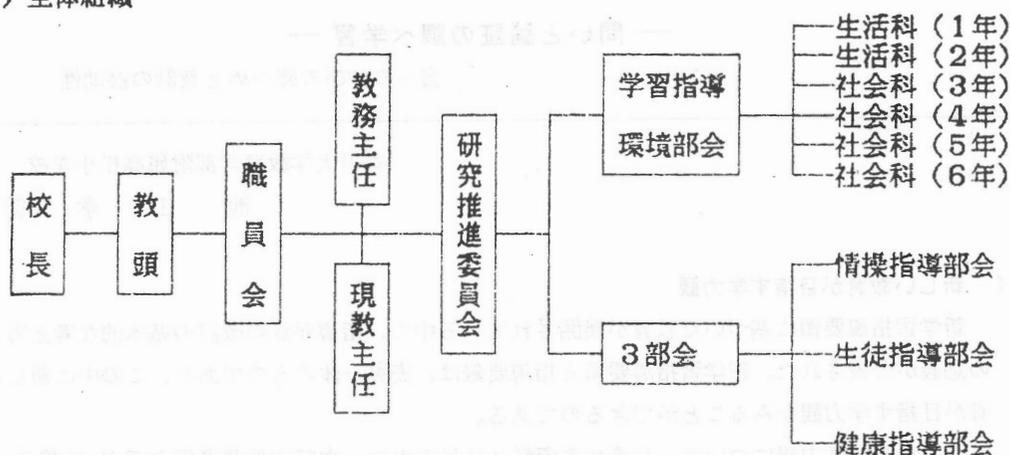
- (1) 体験などの学習活動（調べ学習）が意欲的であったか。
- (2) 教材に対して、主体的態度や学び方ができていたか。
- (3) 自他の長所を知り、認め合い伸ばし合うことができたか。
- (4) 交流の場の学び合いによって、自己修正や個の変容が見られたか。





## 5, 研究組織

### (1) 全体組織



### (2) 部会組織

部会名		構 成 員						助言者
学習環境指導部会	低学年	1年	◎久詰, 矢木	2年	熊田, 板倉, 松岡	藤沢	校長	
	中学年	3年	◎山下, 上村	4年	石田, 滝水	森岡	教頭	
	高学年	5年	◎岩崎, 児嶋	6年	大西, 俵	橋本	教務	
情操指導部会		◎山下, 松岡, 熊田, 久詰, 橋本					教頭	
生徒指導部会		◎児嶋, 大西, 岩崎, 上村, 藤沢					教務	
健康指導部会		◎石田, 俵, 矢木, 滝水, 板倉, 森岡					校長	

◎は、部会の責任者

### (3) 運営の方法

- ・年間計画に基づく役割分担を通して行う。
- ・原則として毎週水曜日を研修日とし、できない場合は、その前後に行う。

### (4) 本年度の努力点

- ・過去の研究成果を生かし、主題を中核にした研修を行い、深化・発展できるよう継続研究を行う。
- ・研究の連続性・発展性が分かるように、授業評価を明確に行い、次回につなぐ。

## 個性を生かし、基礎・基本を大切にする社会科学習

### — 問いと論証の調べ学習 —

自らの伸びの確かめと教師の援助性

香川大学教育学部附属高松小学校

池田孝徳

#### 1. 新しい教育が目指す学力観

新学習指導要領に基づいた教育が展開されている中で、指導要録の改訂の基本的な考え方とその意義が公表された。新学習指導要領と指導要録は、表裏一体のものであり、この中に新しい教育が目指す学力観をみることができるのである。

この新しい学力観について、初等教育資料4月号の中で、文部省教育課程企画官 高岡浩二氏は、次のように述べている。

#### — 新しい教育が目指す学力観 —

人間は、自分の可能性などを発揮し、よく考え、よく生き、よく生きるためによく考える存在であるといわれる。

教育は、このような資質を覚醒させることに力をそそがなければならないといわれる。

今回改訂された新しい教育は、児童一人一人が主体的に生きる資質や能力である、自ら進んで考え、判断し、自信をもって表現したり、行動したりできる創造的な資質や能力の育成を目指している。

このような教育を実現するためには、内発的な学習意欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や能力、思考力、判断力、表現力及び実践力などを学力の基本とする学力観に立って学習指導を創造することが大切である。

したがって、日々の学習指導は、児童一人一人が、自分なりの生き方や考え方、すなわち、自分の思いに基づいて、経験したり、学んだりしたことなどを生かしながら、興味や関心あることなど新しい課題に進んでかかわり、自ら考えたり、判断したり、試みたり、表現したりすることを基軸にして展開される必要がある。

また、このように児童が主体となって展開する過程において新たな課題の解決に生きるように知識や技能などを自ら獲得し、それらが児童のその後の学習や生き方にかかわる思考や判断、表現などの資質や能力の体系の中において発揮されるように組み込まれるようにする必要がある。

このようにして組み込まれた資質や能力は、おのずと個性的なものであり、児童一人一人のその後の学習や生き方に生きて働くことになる。すなわち、それは、児童の豊かな自己実現の資質や能力となる。

また、このような資質や能力こそ、新しい教育が目指す基礎・基本である。(略)

初等教育資料4月号より

ここで述べられている新しい学力観は大きく、3つに整理できてくる。

- ① 自ら学ぶ意欲と能力
- ② 個性的な資質や能力と自己実現に生きて働く基礎・基本の獲得
- ③ 人間としての生き方についての自分なりの考え方

また、3つは、新指導要録の各教科の観点そのものである。

これらは、調べ学習論の中で、「問い」と「論証」の過程で求めてきた、子どもたちにつけたい力と一致するものである。

小学校指導要録資料「観点別学習状況評価のための参考資料」

〔社会〕

学年 観点	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
社会的事象への関心・意欲・態度	地域社会における社会的事象に関心をもち、意欲的に調べることを通して、地域社会を大切にしその成員としての自覚をもとうとする。	広い視野から、地域の社会的事象に関心をもち、意欲的に調べることを通して、地域社会の発展を願いその成員としての自覚をもとうとする。	我が国の産業の発展と環境の保全や資源の重要性について関心をもち、意欲的に調べることを通して、産業の発展を願い国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の歴史や政治及び国際社会における我が国の役割に関心をもち、意欲的に調べることを通して、歴史や伝統を大切にする心情と世界の中の日本人としての自覚をもとうとする。
社会的な思考・判断	地域の社会的事象の特色について考え、適切に判断する。	地域の社会的事象の特色や社会的事象相互の関連について考え、適切に判断する。	国民生活と産業との関連や国土の利用について考え、適切に判断する。	我が国の歴史や伝統のもつ意味及び我が国の政治や国際社会に生きる日本人の役割について考え、適切に判断する。
観察・資料活用 の技能・表現	的確に観察し、地図その他の具体的資料を活用するとともに、その過程や結果を分かりやすく表現する。	地図や各種の資料を効果的に活用し、その過程や結果について分かりやすく表現する。	地図、年表、統計などの基礎的資料を効果的に活用し、その過程や結果を具体的に表現する。	地図、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、その過程や結果を具体的に表現する。
社会的事象についての知識・理解	生活を支えている公共施設や人々の活動及び人々の生活と結び付きのある自然環境、消費生活や生産活動の特色や生活の変化の様子を理解している。	健康や安全を守るための諸活動、地域の地形や産業の様子及び地域の発展に貢献した先人の働き及び国土の特色や特色ある地域における生活の様子を理解している。	我が国の食料生産、工業生産の特色及び運輸通信などの産業の様子や産業と国民生活との関連及び国土の様子などを理解している。	先人の業績や文化遺産及び政治の働きと我が国の政治の仕組みや考え方、国際社会における我が国の役割などを理解している。

旧指導要録

新指導要録

社	知識・理解	①	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、社会の一員として自覚をもって責任を果たそうとする。
	観察・資料活用能力	②	社会的な思考・判断	社会的事象から課題を見だし、社会的事象のもつ意味を考え、適切に判断する。
会	社会的思考・判断	③	観察・資料活用 の技能・表現	的確な観察や基礎的な資料の活用を行うとともに、その成果を具体的に表現する。
	社会的事象に対する 関心・態度	④	社会的事象について の知識・理解	社会的事象についてその特色や相互の関連を具体的に理解している。

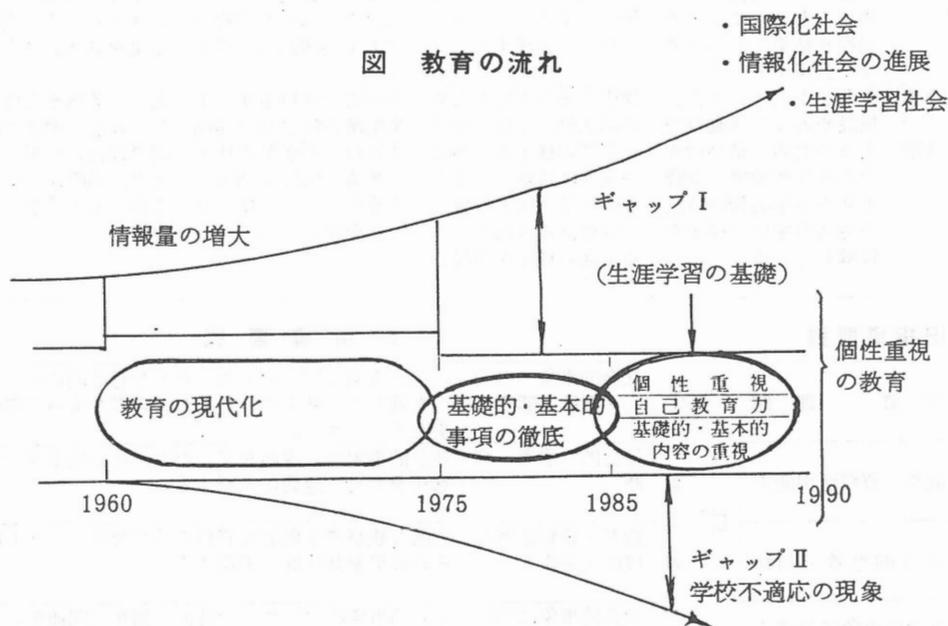
新旧の指導要録を比べてみると、旧の指導要録は、知識・理解を中心に観点を構成しているのに対し、新指導要録は、意欲（内発的動機）を基盤に、思考・判断、表現そして、知識、理解としている。このことから、これからの学習指導は、意欲を重視し、過程の中で得られる思考、表現を大切にしつつ、子どもが自分なりにつかみとる内容が結果としての知識・理解になってくると考える。このようなことから、これからの学習指導は、知識・理解にいたる過程を重視することが大切で、ここに自己教育力育成の視座が見えてくるのである。

## 新しい学力観が生まれてきた背景

社会の急速な激しい変動によって、私たちの周囲は、国際化・情報化社会と進展し、その勢いはとどまるところを知らない状況をつくり出してしまっている。それに対して、学校教育の役割を基礎的・基本的事項のレベルにとどめておくとうなるであろうか。

もともと、基礎的・基本的事項の習得とは、将来において生き得る保障を与えるものであったのであるが、急激な国際・情報社会の進展は、その保障をゆるがすものとなっている。（ギャップⅠ）

ギャップⅠに対して、もう一つの問題状況がある。80年代に入る頃から、子どもの問題行動が増大ははじめ、登校拒否、非行の低年齢化、社会性の欠如、学業不振、無気力傾向等、問題傾向が多様化・複合化しつつ、増大している。学校不適応現象と呼ばれる、学校教育についていけない子どもたちの増大である。（ギャップⅡ）



ギャップⅠは情報社会の進展が学校教育にもたらす問題であり、ギャップⅡは、子どもの成長過程の変質が学校教育にもたらす問題となっているのである。

このような過程の中から、二つのギャップを解消していく方向として、新しい学力観が誕生してきたものとする。

新しい学力観が生まれてきた背景として、もう一つは、これまでの学習理論とこれからの学習理論が変化していることである。

これまでの学習理論の考え方は、効率的に教えるということで、教える側の教師主体の学習で、「答えを出す行為」として、結果を求める学習が中心であった。これからの学習は、学ぶ側の子ども側に立って、答を出す行為の意味を自ら理解する学習が必要とされてくるのである。つまり、新指導要録の観点①～④の過程を重視し、子どもが何かをわかろうとするプロセスそのものを大事にしていくのである。

このようなことから、これまでの「認知心理学」を見直し、

- ① 真実性への自己接近（自分が求めようとしている所に自分が近づいていく）
- ② 自己実現への過程（自分の伸びを確かめ、自分の目標に近づいていく、自己評価）

の2点が学習理論の軸となるのである。ここに過程重視の教育が見えてくるのである。

（参考文献：学校経営 高階玲治「なぜ、開かれた学校なのか」

## これまでの実践と研究課題

### 1. 問いと論証の調べ学習を支える力（自己教育力）を育てる

基礎的・基本的内容についても、子どもたちが個々の能力を発揮してそれぞれにつかみとっていくものであると考える以上、子どもたちがどのような能力を身につけているのかということが、内容の深まりと大きく関わってくる。十分な能力が備わっていない場合は、学年に相応した質の高い「問い」をもって社会意識を追究していくことができない場合も生じてくるのである。

そこで、本年度は、問いと論証の調べ学習を支える力を育てることを重点において研究を進めていきたいと考えた。そのため、次の2点を重点とした。

- ① 問いと論証を支える能力を分析し、それぞれの能力を育てていくには、それに応じた授業のタイプがあるのではないか。
- ② 実際の単元の内容とつないで能力を具体化し、評価をより明確にしていく必要がある。

### 2. 「問いと論証の調べ学習」授業のタイプ

個別化と個性化の授業について理解を深め、単元、あるいは、学年に応じて、そのバランスや適正を考えた指導をしていくことが、自己教育力の育成につながっていくと考える。

#### A 個別化の傾向の強い授業

一定の基礎にそって、フィードバックしながら全員を同じレベルに到達させようとする学習。つまり、そのための学習の方法論である。

代表的なものが九九や漢字の学習である。社会科の場合でも、地図記号や、グラフの書き方など、技能的なものを身につけていく場合に有効である。従って評価に関しても、他者との比較や教師からの評価が比較的重要とされる。

従って、教師も個別指導とともに分かっていないことや、気づいてないことを一斉に指導するような出番が多くなってくると考えられる。

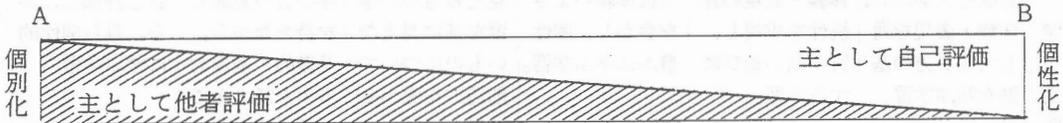
#### B 個性化の傾向の強い授業

一人ひとりが自分の特性や能力をどのように発揮していったかが重要とされる学習である。代表的なものとして、未来のすがたを創造したり、歴史上の人物像を想像していく学習がある。当然評価は、他者との比較や他者評価より、自己評価が中心となり、自分自身の特性を見極めつつそれがどのぐらい伸びたかが重要なのである。

この場合教師は、援助者に徹することを原則とし、教師の出番としても、観点変更のように、学び方のヒントを示すことが多い。

問いと論証の授業タイプ

問いと論証の調べ学習の授業のタイプ	(自己教育力の育成) 問いと論証の調べ学習を支える能力				基礎となる情報提供 教師の出番
	用語・事項・ 技能を身につけていく	調べ方(情報処理能力)を身につけていく	思考力を身につけていく		
			論理的思考力	創造的思考力	
一定の基盤にそってフィードバックしながら、全員同じレベルに到達させる個別化の傾向の強い学習					①分かっていないことを指導 ②気づいていないことを指導する教師の出番
一人一人が自分の特性や能力をどのように発揮していったかが重要とされる個性化の傾向の強い学習					③観点変更など学び方のヒントとなる教師の出番



3. 授業を通して、自己教育力を明らかにしつつ、評価のあり方をさぐる

(1) 問いと論証の調べ学習を支える力を分析する

自己教育力の育成は、決して1学年の間になされるものではなく、各学年に応じて育てられていかなければならない。本年度は、その単年で育てられる自己教育力の内容を次の3つ(①用語・事項・技能 ②調べ方 ③思考力)に分類し、授業実践の中から明らかにしつつ、各学年の系統を考えていきたい。そのことが、具体的で有効な評価活動につながっていくものであると考える。

(2) 評価のあり方

自己教育力の育成には、自己評価が重要であることについては、問いと論証の調べ学習の中でも、何度も述べてきたことである。しかし、自己評価というと、「よくがんばった」「協力できた」といった、情意的や態度的な側面ばかりがクローズアップされがちであった。自分の特性を十分にふまえた自己評価とそれにもとづく目標値を中心に進める「問いと論証の調べ学習」であるからこそ、この評価の問題は、十分に分析をしておかなければ、学習がたいへんあいまいなままに終わってしまう可能性がある。十分な自己評価力の形成があってこそ、はじめて社会認識の追究に関わる自己評価がなされてくるのである。そのためには、他者評価と自己評価との関わりも含めて、評価のあり方を実践の中で考えていかねばならない。

また、評価の問題は追究していく基礎的・基本的内容(社会認識)との関係をぬきには考えられない問題である。

(3) 社会の変化に対応できる単元の開発と教材研究

「社会の変化に対応して」という言葉が使われ始めてひさしいが、その間にも社会は日々の変化を止めていない。しかし、教室で行われている授業はどうだろう。個性的な分り方、基礎的・基本的内容は一人ひとりが違って当然であるといわれながら、その分り方や内容は、変わってきているのだろうか。子どもたちが個性的な見方で社会事象を追究していこうとしているとき、教師自身の教材研究がもう1度、今までいわれてきた視点にたちかえって、教材研究や内容分析をしてみる必要があるのではないかと考える。

- ① 国際化    ② 文化と伝統    ③ 情報化    ④ 環境    ⑤ 技術革新

「問い」、「論証」、「自己評価」の系統表

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
学年主題	意欲を大切に、体験・表現を通して学び方の基礎を学ぶ学習。	体験・表現の連続性を重視し、質の高い遊びにする学習。	直接体験のよさを生かし、個性豊かに学ぶ学習。	見えるものの学習を基に見えないものについて創造力を働かせて学ぶ学習。	学び方の見通しを持ちながら、基礎的・基本的事項を踏まえて論証する学習。	自己評価しながら、自ら個性的に学ぶ学習。
問い	体験の中から問いを見つけ表現することで、学び方の基礎を身に付ける。	時間・空間の連続的な単元構成により、子供の学習意欲を高める。	実物調べを通して、個性豊かな感性を育て、問いの広がり重視する。	事象をつなぐ中で、創造的な問いを生む。	身近な地域を基盤にして社会的傾向性を見通すよう、見通しを持った問い(目標値)を持つ。	人物の生き方に共感しながら、歴史を自ら綴り、構想する。
論証	子供の学習意欲に支えられた単元構成とする。	体験・表現の連続性を重視することで、遊びの質を高める。	その子らしい表現活動の中に、内容の豊かさを求める。	創造的に事象をとらえることで、個性的な論を展開する。	いくつかの資料を組み合わせ、しっかりした論を組み立て説明する。	自分の目標値を持ち、自己評価しながら自ら学んでいく。
自己評価	小単元・大単元の年間を通して、自他の伸びを自己評価する。	自他の伸びを見つめることで、一人一人の「問い」を学級集団の学習課題に高める。	自分らしさを友達と比べ互いによさを認め合う自己評価を行う。	自他の調整の中から、自分なりの分り方を記録して、確かめる。	個に応じた教師の援助により、自己評価の能力を高める。	基礎・基本を大事にしながら、教師の援助を得て、自己の伸びを確かめ、自己評価する。子供の個性を伸ばす教師の援助。

## A 個別化の傾向の強い授業 5年単元 — 米, 野菜作りに取り組む人々 —

### 1. 2時間連続の授業形態を考える

基礎的・基本的内容が生きて働く力となるためには、既習の内容が次の学習に転移し、社会事象を見る視点や学び方として生かされなければならない。そのための方法として、単元構成の中に2時間連続授業を位置づけ、学習内容や学び方を定着させることが効果的であろう。

1章でも述べたように、今、教える教師から育てる教師へと、指導観が変わっていかねばならない。育てる教師は、子どもの側に立ち、子どもの学習や生活に生きて働く力を培うことが要求されてくる。ここでは、生きて働く基礎・基本を学んでいくための教師の援助活動について、5年単元「米, 野菜作りに取り組む人々」を例にみていくこととする。

### 2. 5年単元「米, 野菜作りに取り組む人々」の学習における単元化の構想

単元の展開にあたっては、従来の単元構成を改め、米作りと野菜作りの並行学習とする。すなわち、身近な地域と宮崎の野菜作りを比較することにより、近郊農業と野菜の主産地農業の特色を明らかにする。そして、さらに並行学習として、米作りと野菜作りを比べ、日本の農業の課題にせまっていくものである。

#### 〔特色1〕「単元構成」について

#### ① 単元構成の軸は「調べ問題」におく。

五年生の単元「米・野菜づくりに取り組む人々」を例にして述べよう。単元化するにあたり、工夫したことは、表1で分かるように、基礎・基本を内容と学ぶ力の二つの面から考え、単元構成に表したことである。(○は内容の基礎・基本、◎は学び方の基礎・基本)

また、体験から表現へ、表現を詳しくしたり修正したりするというように、表現活動が次々に連続し、深まりを持っていることである。子供は、学習にめあてを持っているから学習意欲を高めながら学習を進めていくことができる。そこで、「問い」が生かされ、幾通りもの答えや表現のできる「調べ問題」によって、学習を進めていくことを考えた。「調べ問題」には、次のような特徴がある。

ア 単元の学習全体を通して、個々の子供がめあてを持って学んでいく。

イ 「～の秘密を調べて、～に表現しよう」というように調べる観点と表現の手法を含めたものである。

ウ 一人一人子供の持った「問い」が追求でき、個に応ずることができる。

#### ② 単元構成は、教えることと学ぶことを明確にする。

第1次は、子供達が単元全体を見通した学習計画を立て表現方法を定める。

第2次から第3次は体験(実物調べ・資料調べ)により表現する。

第4次は、調べて表現した絵図などを教材にして交流し考えを深める。

第5次は、情報不足の面を教師が補足して表現を充実する。第6次は調べたことを発展させ表現を完成する。

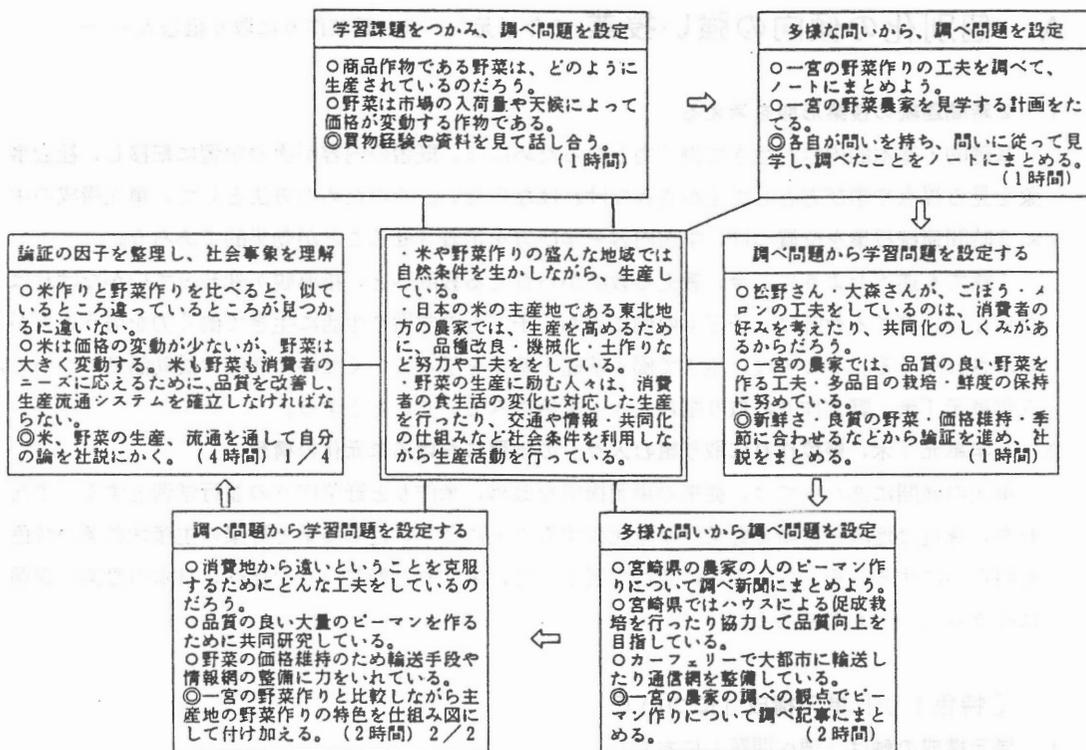


表1

このように学ぶ力を育てる過程の中で、最も留意しなければならないことは、第5次にある教師の情報提供である。子供の情報が不足し、調べることが高まらないことが予測される場合である。その時は、情報を提供し、教えることも重視する必要がある。何が何でも「自分で調べる」のではなく、子供の手には負えない場合は、教師が情報を提供し、解説する授業も必要なのである。論証していくためには、そのなりの知識が要求される。このことを忘れた「調べ学習」は存在しないのである。教える場面と育てる場面を教師が十分把握していないと子供の意欲を育てる体験・表現の活動を重視した「調べ学習」は成立しないのである。

〔特色2〕「問いと論証の過程での学び方」

「調べ学習」では、大量のしかも多様な「問い」を生み出すことが肝要である。

学習は、「おかしいな」「どうしてかな」という素朴な疑問から始まる。例えば、『経済連』を調べている時、ファクシミリに対する疑問を調べている時、ファクシミリを見ても、何の疑問も持てない子供と「どうしてこんなところに」と感じる子供では、その後の学習意欲は大きく違ってくる。ファクシミリに対する疑問を調べていくと「野菜作りが盛んになった秘密は、きっと連絡方法に工夫があったからかな。」と次々に内容に迫っていきけるような「問い」が生み出されていき、学習意欲は、ますます高まる。このような「問い」の連続と質的な高まりが、「調べ学習」を支えていく。

① 「問い」を生み出す過程を重視する。

「問い」を生み出すために、どんな点を工夫すればよいのか。二つあげておこう。

ア 実物調べを多く取り入れる。

特に中学年の段階では、実際に見学に行ったり、実物に触れたりした時の驚きからたくさん疑問が生み出されてくると考える。五年生の産業学習でも、まず地域にある素材を十分に調べることが大切になっている。そうした積み上げの上に、実物調べというように、直接体験できない社会事象について、図書・統計・視聴覚資料などによる調べが可能になり、六年生での歴史学習などの内容についても構想することができるレディネスができあがってくると考えられるのである。

イ 教材は子供の表現の中にある。

調べ学習では、表現は学習内容との関わりによって深まっていくと考えられる。「日本の農業」の授業でも子供の収集した米・野菜作りの資料のまとめから調べ問題ができ、子供の作った農業新聞が詳しくなることが、「日本の農業」の内容に迫ることになる。子供の表現は、子供の反応としてとらえられ、その中から、新たな「問い」が出て、次の学習を深めていく。つまり、教材は、教師がある日突然提示するものではなく、子供の表現が教材となるのである。

② 教師は、個に応じた援助に徹する。

調べ学習が教え方の学習ではなく、学び方の学習である以上、教師の役割は格別の意味を持つてくる。調べ学習では、教師は『援助者』であることを鉄則にしている。

援助者としての教師の働きには、二つある。

ア 学習の流れの中で行う援助

指導案の上でも、従来、指導上の留意点を記入していた欄には、援助活動を書く。また、座席表によったり、コンピュータを利用したりする個に対応する援助も書く。

イ 教師の出番として、情報を提供する援助

子供の思考を飛躍させ、「論証」を確実なものにしていく教師の援助活動である。「日本の農業」の授業の中で言えば、第5次の経済連・農協・東京事務所の調べを関係づけ、輸送・通信の仕組みがよく分かるよう、交流をする場面である。このように、「比較する」「総合する」という学び方を援助したり、観点変更の手助けをしたりして、子供の思考を深めたり、飛躍させたりする援助と、知識、情報が少なく十分な分かり方や「論証」ができない場合の援助がある。

③ 子供の調整力を育てる

子供は互いに認め合い、自分の伸びを自己評価しつつ成長していく。それは、子供相互の人間関係を育てる中で、調整力として育てていく。子供が模型や新聞を作る作業をしようとする時、必ず話し合いがあり、役割の分担がある。そこで子供達はいつも自分の好む分担ばかり行っていたのでは作業がうまくいかないことを経験したり、いつもは気づかなかった友達の良さ

に気づいたりできる。このような経験が子供の人間形成の上で重要だと考えた。

④ 2時間で培った基礎・基本

本時は、3次の6/6と4次の1/5を2時間連続とした学習である。「宮崎の野菜作りが、一宮と比べて市場が遠いのにピーマン作りが盛んになったのは、輸送や通信に工夫があったからに違いない。」という学習問題をもとに学習が展開する。個の見通しをもとに、野菜新聞を調べ直し、野菜作りが盛んになった理由をグループ内でカードに書いていくのである。さらに、そのカードをグループ内で類別する。この活動では、単にカードを仲間分けして終わっているグループもあるが、仲間ごとに見出しを見つけ、「時間の短縮」、「大量輸送」といった観点で抽象化していこうとするグループを他のグループに紹介し、「分かりやすい方法だね。」という最恵モデルの評価をしたのである。

- 宮崎の野菜作りは、市場から遠距離であるということから、輸送方法を工夫したり、情報網の整備の充実に努めていることを論証の過程でとらえる。
- 産地と市場とのつながりを仕組み図に表現することを通して、輸送と通信の関係に気づく。

<教材性となる子の意識の流れ>

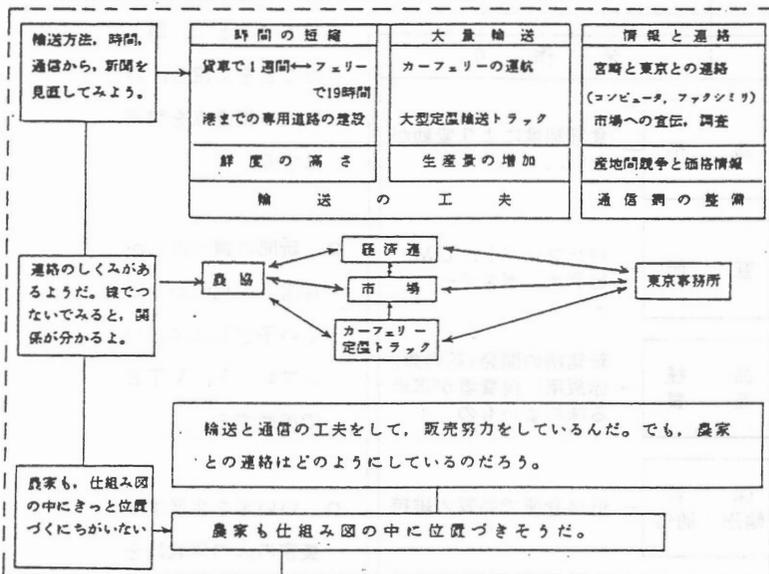
<教材性に学ぶ子の意識の流れ>

<教師の援助活動>

宮崎の野菜作りは、一宮と比べて市場が遠いのに、ピーマン作りが盛んになったのは、輸送や通信に工夫があったからに違いない。

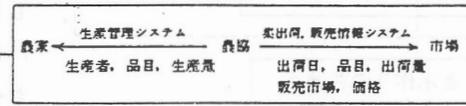
米作りでは輸送や通信の工夫はあまりなかったよ。

野菜新聞の中の輸送や通信の工夫を調べ直そう。



輸送と通信の工夫をして、販売努力をしているんだ。でも、農家との連絡はどのようにしているのだろう。

農家も仕組み図の中に位置づきそうだ。



計画生産と計画出荷のシステムが確立しているぞ。

宮崎では、計画的に大量に生産された野菜を高く売ったり、より高く出荷するために、農家や農協、経済連が連携して、情報を得たり、輸送方法を工夫している。

次時「米作りと比較して、問題を作っておきましょう」

前時までに解決できなかったことを明らかにし、個の見直しをもとに仕組み図に表そうということで意欲化を図る。

グループ内で因子を含んだカードを類別し、交流する中で、友達の論の良さに気づく。

◇ 輸送の工夫と通信網の整備が関係していることを仕組み図に表すことで気づかせる。

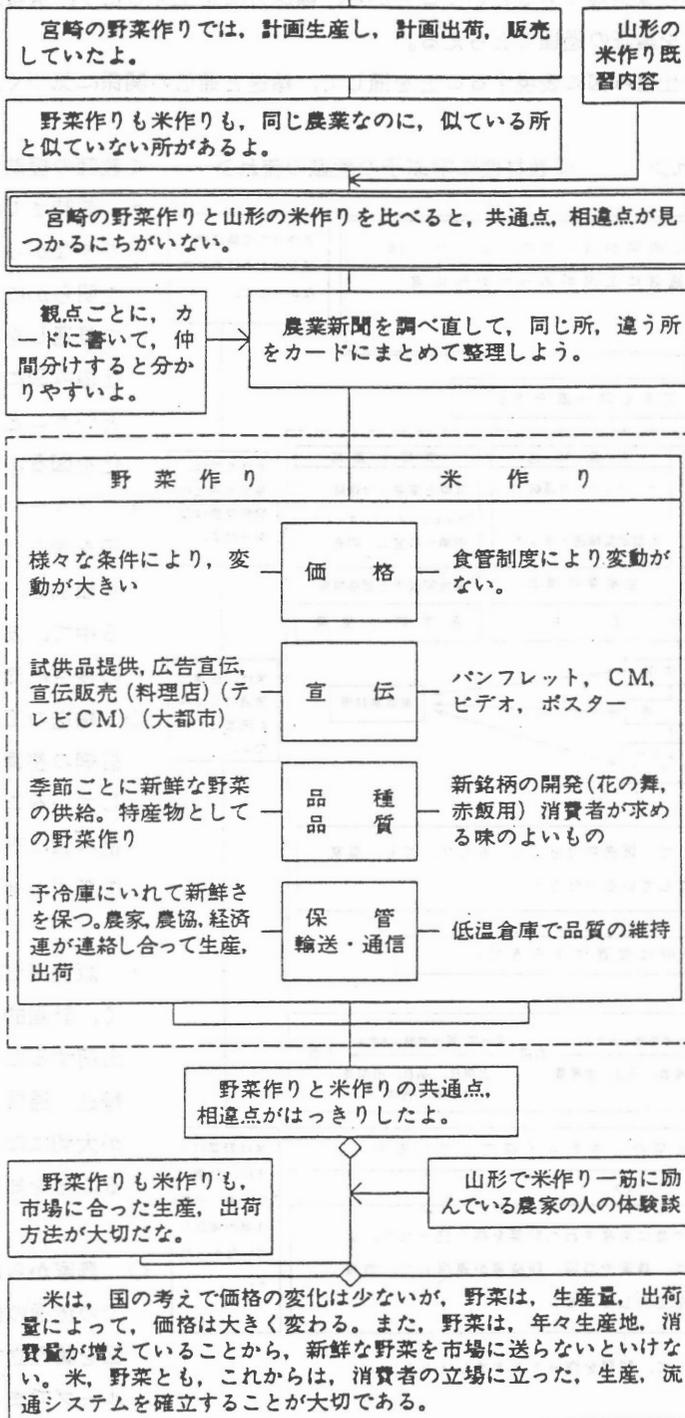
販売面だけでなく、計画的生産、出荷するために、輸送、通信の工夫が大切になってくることを知らせる。

◇ 農家から市場までの流通の仕組み図を論理立ててグループでまとめる。

米作りでは、毎日市場との情報交換はなかったよ。

米は、法律で流通のしくみが決まっていたよ。

米は野菜のように、計画的な生産、出荷体制が確立していなかったよ。



<教師の援助活動>

- 山形の米作りの既習内容と野菜作りを比べると違いが見つかるという見通しを持ち、意欲づけをする。
- グループで因子カードを出し合い、分類することで、調べたことを交流し、類似点や相違点を明確にする。
- 新聞の調べ直しから因子が見つかりにくい子どもには、パンフレット、VTRで援助する。
- いい米を生産する農家の人の体験談をもとに、米作りにかける人間の姿に共感させたい。
- 米、野菜の生産、流通を通して、日本の農業の課題を社説の中に論じる。

図IV-32 本時の学習の流れ

#### ⑤ 個別援助による情報提供

仕組み図に表現する活動では、「きっと、農協、経済連、市場といった組織が連絡しあっているのにちがいない。」という見通しをもとに活動を展開する。ここでは、子どもの論理を大切にしながら、グループごとに情報提供していくのである。「電話で連絡しているのかな。」「野菜の種類が多いとまちがうかもしれないね。」といった助言を個別にしていく中で、子どもの論理に基づく仕組み図が表現されていくのである。ここに、個別援助による情報提供がなされ、生きて働く基礎・基本が子どもたちの手によって獲得されていくのである。

#### ⑥ 教師の出番としての、見えない部分の情報の提供

野菜の輸送の工夫や流通網の整備、さらには、組織ごとの連絡のシステムは明確になっても、計画生産、計画出荷については、子どもたちは気づいていない。ここで、農家、農協、市場の三者が一体となって、生産管理、集出荷していることを知らせる場が必要となってくる。三者を図式化し、計画的生産、出荷をするために輸送、通信の工夫をしているという情報を教師が提供するのである。ここに、子どもたちが調べて見えていなかった部分を提示して、論証を深めていく、教師の出番としての援助活動が成立するのである。

#### ⑦ 生きて働く基礎的・基本的内容であるための教師の援助

前のページの指導案図Ⅳ-32は、4次の第1時で、基盤学習としての米作りの学習を踏まえた、野菜作りの学習の流れである。第2次で、米作りに取り組む農家の人々の栽培の工夫、省力化、品種改良、宣伝、保管方法について、第3次では野菜を生産するための工夫や出荷の工夫について調べ、大量生産を支える輸送や通信方法を新聞に表現している。本時は、これらの学習を土台に野菜作りから観点を変更し、宮崎の野菜作りと山形の米作りを調べ直し、両者の相違点、共通点を洗い出していく学習である。グループとして新聞を調べ直し、米、野菜作りの生産の特質をカードに書き、類別して見出しをつけていくのである。この活動によって、価格、宣伝、品種、輸送、通信等の観点が明確になり、論証の因子が子ども自らの手で発見されていくのである。この時に、つまずいている子には、パンフレットやビデオ等の資料で因子を見つけさせるという個別の援助が必要である。

## B 個性化傾向の強い授業

— 一個が生きる授業の展開を目指して 実践例5年単元「成長する通信販売業」より —

### 1. 単元「成長する通信販売業」について

この単元は、学習指導要領第5学年内容(3)「我が国の運輸、通信などの現状に触れ、それに従事している人々の努力や工夫について理解できるようにするとともに、国民生活を支えるこれらの産業の意味について考えることができるようにする。」を受けてのものである。

#### (1) まず前提として、運輸業、通信業の今日的な流れについて述べておきたい。

前者においては、物流という点において、消費者ニーズの個別化・多様化などにより、小型荷物の増加、運搬頻度の高まりが見られていることがあげられる。自動車輸送の利点がますます生かされる状況が生まれており、宅配便の定着は、その象徴といえる。後者においては、通信サービスに対する多様なニーズの発生、情報量の増加、通信と情報処理の融合が、急速に進行している。通信の自由化は、そうした変化への対応の一つである。また、コンピュータを電気通信回路に接続し、種々の情報の伝送と処理を一体的に行うデータ通信も急速な発展を見せてきている。

この両者の変化は、現代の農工業にも影響しているし、第三次産業自体にも、もちろんそのことがあてはまる。

#### (2) 本単元で取り上げた通信販売業は、今あげた運輸業や、通信業の進展にもなつて伸びつつある業態であり、象徴的であるとさえいえるものである。

折りしも、消費者傾向が、多様化・個性化し、それがさらに変化する現代。流通機構にも社会の変化に対応した改革が求められているところであった。商品開発、商品情報の提供、受注、配送、集金を一貫したシステムの中で行うことが必要とされていたのである。

通信販売業は、まさしくそういったシステムの確立した一つの形である。どの商品がいつ、何個売れたかなどの情報をすばやく処理する機能と、その商品を素早く届ける物流システムの統合は、通信販売の命ともいえる部分なのである。

#### (3) 以上のような理由から、本単元は、通信販売業についての調べを接点として、運輸、通信業の現状に触れていくという単元の構成をとる。通信販売業が伸びてきた要因を探ることによって、運輸、通信業に従事している人々の努力や工夫に目を向けていこうとしたわけである。

こうして、それぞれの産業は独立して進展するのではなく、お互いに影響し合っていることを産業構造の変化としてつかませ、国民生活を支える産業としての意味をより具体化する。さらに、通信販売業の成長の要因として、女性の社会進出や、セルフサービスになれた現代人といったことを取り上げ、これからは、逆に、人と人とを結ぶふれあいがより一層大切になってくることに気づかせていく。

そこで本単元の基本を次のように考えた。

「短時間に小型荷物を運ぶ運送手段の発達，情報を正確かつ素早く流す通信網の整備，消費者の考え方の変化などが，情報による取り引きである通信販売業の伸びを生み出している。

こういった現状のもとでは，人と人とのふれあいをより一層大切にしなければならない。」

#### 「成長する通信販売」

第1次 セシールのカタログや三・四年のノートを基にして，「問い」をつくる計画を立てる。

(学習課題) 『通信販売業』について調べよう。

第2次 問いをグループで交流・整理しながら解決の方法を話し合い，調べ問題をつくる。

(調べ問題) 『通信販売業』の伸びの秘密を友達と交流しながら明らかにし，ノートにまとめよう。

第3次 グループごとに情報の交流をし，自分なりの解決方法をノートに書く。

第4次 個々の目標値に従って，調べたことをグループで構成し，通信販売の伸びの秘密を明らかにする。

(学習問題) 産直通販の伸びの秘密をめあてに従って，より明らかにしよう。

第5次 通信販売業の伸びの秘密をグループごとに発表する。

第6次 これまでの調べで分かったことをノートにまとめる。

第7次 通信販売業の伸びの秘密を文章にまとめ，発表会をもつ。

## 2. 個が生きる単元の展開

### (1) 単元構成

①

- 通信販売業は、マスメディアやカタログなどを使って販売し、電話などにより注文を受けて配送するという形態をとっている。
- 通信販売の業績は、近年ぐんぐん伸びてきている。
- センールのカタログをみて、通信販売業について話を聞く。
- 3・4年のときの社会科のノートをもとにして、問いをつくる計画を立てる。

学習課題

「通信販売業について調べよう。」

(1時間)

②

- 3年生「私たちの商店街」、4年生「県内の産業と交通」の学習が、通信販売業を調べる際の問いをつくる基盤となる。
- 3・4年生で学んだことから、センールを例にして通信販売業を調べる問いをつくる。
- 問いをグループで交流・整理しながら解決の方法を話し合い、学習の計画にする。

調べ問題

「通信販売業の伸びの秘密を友達と交流しながら明らかにし、ノートにまとめよう。」

(1時間)

短時間に小型荷物を運ぶ運送手段の発達。情報を正確かつ素早く流す通信網の整備。消費者の考え方の変化。これらが情報による取り引きである通信販売業の伸びを生み出している。

しかし、こういった現状になりつつあることを考え、人と人とのふれあいをより一層大切にしなければならない。

- 幹線道路の整備などにより、短時間かつ安価に輸送できる運輸業が発達している。
- 正確で素早くかつ多様な情報の行き来が、供給者と消費者の距離を縮めている。
- 運輸業・通信業の発達が流通経路を短縮し、正確で信頼性のある情報による取り引きを可能にしている。
- 女性の社会進出、余暇の過ごし方の変化などにより、人々の考え方に変容が見られる。

③

- 産直通販、郵便局ふるさと小包、デパートのカタログ販売などから、調べてみたいものを決める。センールでの問いのつくり方に学んで問いをもち、自分なりの解決をノートに書く。
- 同じ通信販売を調べるものがグループになって、ノートをもちより情報の交流をする。

(2時間)

⑦

- 通信販売業は、国民生活をより便利な方向に変えようとしている。が、このことにより人間関係が希薄になってはならない。
- これまでの調べから通信販売業の伸びの秘密を文章にまとめて、発表会をもつ。
- 自分たちの調べをもとに日本の未来像を描き、人間としてのよりよいあり方をみつめる。

(2時間)

④

- グループ内での情報の交流から、解決できていない問いや、新たな問いを見つけ、さらなる追究のための問いを一人一人がもつ。
- 見通しや調べ方を含んだ目標値を定めつつ、自らの問いを解決する。
- 個々の目標値に従って調べたことをグループで構成し、自分たちの選んだ通信販売の伸びの秘密を明らかにする。

(4時間) 本時3/4

⑥

- ここまでの調べでわかったことから、第2次でつくったセンールの問いを解決し、ノートにまとめる。

(2時間)

⑤

- 選んだ通信販売業の伸びの秘密をどのように明らかにしていったか、グループごとに発表する。
- 他のグループの発表を聞き、わかったことをノートにまとめる。

(1時間)

## (2) 本実践単元の主張点

本単元の構成は、先にあげたとおりである。もう一度概略を述べ、さらに、本実践で主張したい点について記してみたい。

### 単元の概略

- ・ センサーを例にして、通信販売業を調べる際の問いのつくり方を一斉に学ぶ。
- ・ 自分の調べたい通信販売の伸びの秘密について問いをもち、目標値を高めながら個人的に論証する。
- ・ 他の通信販売を調べたグループの発表をもとに、論証を深める。
- ・ センサーについてつくった問いを一斉の場で解決し、論証を確実にする。
- ・ これまでの調べをもとに、人間としてのよりよいあり方を見つめる。

### 主張

- ・ 一人一人の問いや特性が、グループや全体にかき消されることなく生きていく。個々の追求の過程があくまでも保証される。
- ・ 調べる事例も、学習の順序も、個によって異なり、基礎となる内容をとらえる過程が異なりつつも、単元を通してみた場合、どの子も基礎的・基本的内容を確実にとらえる。

こうした個が生きる授業（個性化をはかる授業の展開）を実現するために、配慮した点について、以下実践内容を含みながら列挙することとする。

## 3. 授業展開にあたって配慮した点

### (1) 認識の系列を大切にす

第2次で、3・4年時のノートをもとにしながら通信販売業に対する問いをつくることにした。これは、本単元で取り上げる通信販売業で学ぶべき基礎的・基本的内容が、認識の系列でどのような基盤の上に成り立つものかを明確にするためである。

販売と消費という面においていえば、第3学年の内容(3)「…地域の人々は品質や価格などを考えて購入していることや、商店や商店街などでは販売について工夫していることを理解できるようにするとともに……。」、産業と交通網という点では、第4学年内容(3)「…県全体の地形や主な産業、都市や交通や交通網などを調べたり白地図に記入したりして、それらの特色について理解できるようにする……。」が基盤になる。

こういった認識の系列の上で基盤となる内容を明らかにすることによって、どの子にも追求する価値のある、他と交流できうる問いがもてると考えた。これは、従来問いをつくるという問いながら、浅くて雑多な問いであるとか、意味ある問いとかいうとらえ方の反省に立つものであ







- ①目標値の低い子に対する援助 ②情報量の少ない子に対する援助 ③表現方法を工夫しようとしている子に対する援助 ④論理づけを目指している子に対する援助

それぞれの場において資料を提示したり、交流の相手を助言したりする。授業のなかでは、教師との相談コーナーを設け、子供たちが自発的に、気軽に相談に来れるような雰囲気づくりを心がけた。

また、第7次の学習では、子どもたちにとって目が向きにくいこれからの人間のあり方という点について示唆を行った。人と人との生のふれあいの大切さについて考えさせたのである。

①	②	③	④
①	②	③	④
⑤			
⑥	⑦	⑧	⑨
⑩			
⑪	⑫	⑬	⑭
⑮			
⑯	⑰	⑱	⑲
⑳			
㉑	㉒	㉓	㉔
㉕			
㉖	㉗	㉘	㉙
㉚			
㉛	㉜	㉝	㉞
㉟			
㊱	㊲	㊳	㊴
㊵			
㊶	㊷	㊸	㊹
㊺			
㊻	㊼	㊽	㊾
㊿			

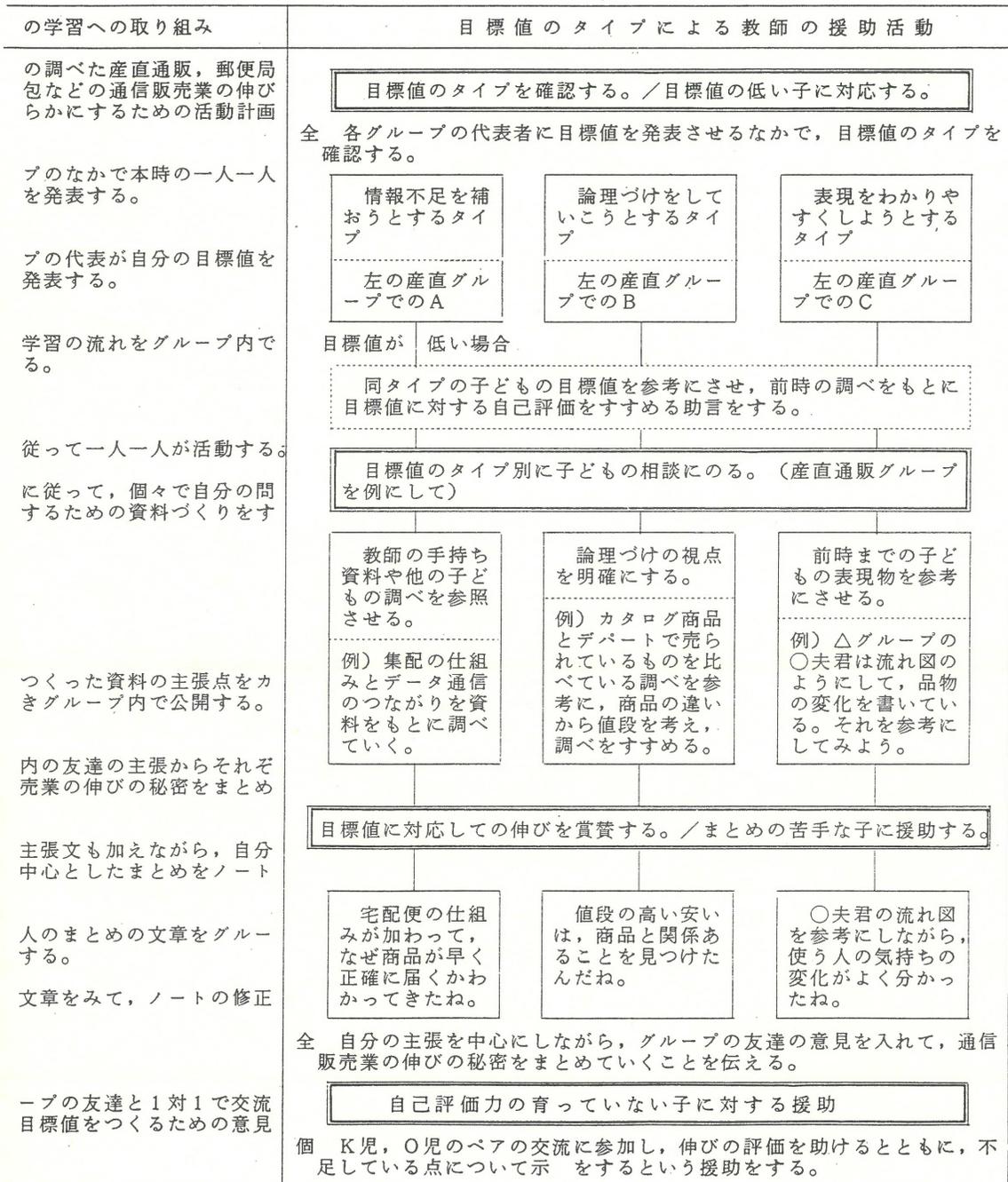
本時の学習（第4次3/4における教師の援助活動）

- (1) 目標 自分たちの調べた通信販売業（産直通販<宅配便>、郵便局ふるさと小包、生活総合カタログ）にすることができる。
- (2) 学習指導過程

問 い と 論 証 の 過 程 （産直通販グループを例にして）	子ども																				
<p>一人一人が追求している問い</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%; padding: 5px;">新鮮なまま届くのは工夫があるはずだ</td> <td style="width:25%; padding: 5px;">人気の秘密は商品にも関係あるはずだ</td> <td style="width:25%; padding: 5px;">値段がかえって高くなるのでは</td> <td style="width:25%; padding: 5px;">宣伝していないのに売り上げが伸びている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">前時の主張</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">宅配便を使うからすぐに送れる</td> <td style="padding: 5px;">季節に合わせて商品をカタログにのせる</td> <td style="padding: 5px;">流通経路が短くなりその分安くなる</td> <td style="padding: 5px;">1回目の印象がよく、信頼感を得て次も買う</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">本時の目標値 A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">宅配便の仕組みをつくってわえよう</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">カタログの商品が店で売られているか</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">商品の種類とつないで考えてみよう</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">使っている人の声をわかりやすく書く</td> </tr> </table>	新鮮なまま届くのは工夫があるはずだ	人気の秘密は商品にも関係あるはずだ	値段がかえって高くなるのでは	宣伝していないのに売り上げが伸びている	前時の主張				宅配便を使うからすぐに送れる	季節に合わせて商品をカタログにのせる	流通経路が短くなりその分安くなる	1回目の印象がよく、信頼感を得て次も買う	本時の目標値 A	A	B	C	宅配便の仕組みをつくってわえよう	カタログの商品が店で売られているか	商品の種類とつないで考えてみよう	使っている人の声をわかりやすく書く	<p>1 自分たちふるさと小の秘密を明を確認する。</p> <p>(1) グループの目標値</p> <p>(2) グループ全体の場で</p> <p>(3) 本時の打ち合わせ</p>
新鮮なまま届くのは工夫があるはずだ	人気の秘密は商品にも関係あるはずだ	値段がかえって高くなるのでは	宣伝していないのに売り上げが伸びている																		
前時の主張																					
宅配便を使うからすぐに送れる	季節に合わせて商品をカタログにのせる	流通経路が短くなりその分安くなる	1回目の印象がよく、信頼感を得て次も買う																		
本時の目標値 A	A	B	C																		
宅配便の仕組みをつくってわえよう	カタログの商品が店で売られているか	商品の種類とつないで考えてみよう	使っている人の声をわかりやすく書く																		
産直通販の伸びの秘密をめあてにしたがってより明らかにしよう	<p>2 目標値に</p> <p>(1) 目標値いを解決る。</p>																				
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%; padding: 5px;">産地→営業所→発信ターミナル→遠距離乗り継ぎ→到着ターミナル→集配所→家</td> <td style="width:25%; padding: 5px;">産直スーパー 夕張メロン ある めったにない  鯖 なまの塩づけ まま</td> <td style="width:25%; padding: 5px;">普通のスーパーや店ではめったに手に入らないものだから多少高くてもよいと人々は考えている。 消費者の考え方の変化</td> <td style="width:25%; padding: 5px;">1回目 宅配のおじさんにカタログをもらって使ってみようか ↓ 2回目 新鮮だったし値段から考えるとよかった ↓</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">売り上げ報告データ通信</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">全国に広がる集配の仕組みが整い、品物を確実に素早く届けるんだな。</td> <td style="text-align: center;">⇔</td> <td style="padding: 5px;">普通の店では買えないような商品がのっていることが伸びの秘密だな。</td> <td style="text-align: center;">⇔</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="padding: 5px;">集配能力の仕組みを整え、合理化された宅配便が素早く確実に商品を届けるので、消費者の信頼が得られ、他に置いていないものを扱える。</td> </tr> </table>	産地→営業所→発信ターミナル→遠距離乗り継ぎ→到着ターミナル→集配所→家	産直スーパー 夕張メロン ある めったにない  鯖 なまの塩づけ まま	普通のスーパーや店ではめったに手に入らないものだから多少高くてもよいと人々は考えている。 消費者の考え方の変化	1回目 宅配のおじさんにカタログをもらって使ってみようか ↓ 2回目 新鮮だったし値段から考えるとよかった ↓					売り上げ報告データ通信				全国に広がる集配の仕組みが整い、品物を確実に素早く届けるんだな。	⇔	普通の店では買えないような商品がのっていることが伸びの秘密だな。	⇔	集配能力の仕組みを整え、合理化された宅配便が素早く確実に商品を届けるので、消費者の信頼が得られ、他に置いていないものを扱える。				<p>(2) 自分の一ドに書</p> <p>3 グループれの通信販る。</p> <p>(1) 友達の主張やに書く。</p> <p>(2) 一人一ブで構成</p>
産地→営業所→発信ターミナル→遠距離乗り継ぎ→到着ターミナル→集配所→家	産直スーパー 夕張メロン ある めったにない  鯖 なまの塩づけ まま	普通のスーパーや店ではめったに手に入らないものだから多少高くてもよいと人々は考えている。 消費者の考え方の変化	1回目 宅配のおじさんにカタログをもらって使ってみようか ↓ 2回目 新鮮だったし値段から考えるとよかった ↓																		
売り上げ報告データ通信																					
全国に広がる集配の仕組みが整い、品物を確実に素早く届けるんだな。	⇔	普通の店では買えないような商品がのっていることが伸びの秘密だな。	⇔																		
集配能力の仕組みを整え、合理化された宅配便が素早く確実に商品を届けるので、消費者の信頼が得られ、他に置いていないものを扱える。																					
他のグループの友達に自分の調べを聞いてもらって、次のめあてを立てる手がかりをみつけよう。	<p>(3) 友達のをする。</p>																				
<p>次時の目標値</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%; border: 1px dashed black; padding: 5px;">実際にどのように届くか具体的に調べたい</td> <td style="width:25%; border: 1px dashed black; padding: 5px;">そういった商品をどうやって運ぶのだろう</td> <td style="width:25%; border: 1px dashed black; padding: 5px;">人々の考え方とつないでみよう</td> <td style="width:25%; border: 1px dashed black; padding: 5px;">他の人のインタビューも入れよう</td> </tr> </table>	実際にどのように届くか具体的に調べたい	そういった商品をどうやって運ぶのだろう	人々の考え方とつないでみよう	他の人のインタビューも入れよう	<p>4 他のグル、次時のを聞く。</p>																
実際にどのように届くか具体的に調べたい	そういった商品をどうやって運ぶのだろう	人々の考え方とつないでみよう	他の人のインタビューも入れよう																		

- (3) 形成過程における評価 自分の調べた通信販売業の伸びの秘密を目標値にそってより深めて表現で

販売、生協)の伸びの秘密を輸送手段の発達、通信網の整備、人々の考え方の変化などの視点から明ら



きているか。



